日刊工業新聞

年月日	24	04	03	ページ	21	NO.	

三井住友Ｆ＆Ｌ

クラウド型資産管理システム

30年500社超に提供

三井住友ファイナンス＆リース（ＳＭＦＬ）は、自社開発したクラウド型資産管理システム「アセットフォース」を拡販する。２０３０年までに足元の約５倍となる５００社以上に提供する方針だ。アセットフォースを活用することで棚卸しや入出庫作業の時間の短縮、資産の見える化による意思決定の高度化などにつながることを顧客に訴求する。今後、アセットフォースで集めたデータを利用し、顧客への最適な金融サービスの提案にもつなげる考え。

アセットフォースは資産に貼り付けた２次元コード（ＱＲコード）や無線識別（ＲＦＩＤ）、バーコードを読み取るだけで資産情報を把握でき、効率的な入出庫や棚卸しが可能になる。パソコンなどから資産情報にアクセスでき、即時に在庫状況が分かる。営業の機会損失の削減にもつながる。

▲アセットフォースは車両管理にも活用できる

ＳＭＦＬはアセットフォースを開発し、19年に自社資産の管理に導入した。21年に外販を始め、これまでに製造や不動産賃貸、金融・レンタル業など１００社程度に提供済みだ。

今後、アセットフォースを売り込むデジタル人材を育成することで、提供先を増やす方針。内製化する強みを生かし、顧客ニーズに合わせて商品を改良する。

ＳＭＦＬはアセットフォースを利用する中で蓄積されたデータから顧客ニーズを把握し、ファイナンスなど顧客に合った金融サービスの提供などに結び付ける考え。データを活用することで、ソフトウエア単体の売り上げだけでなく、他事業とのシナジーの発揮を狙う。

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社